

日本鉱物科学会論文賞

平成26年度日本鉱物科学会論文賞第16回受賞者

Tomoki TAGUCHI and Masaki ENAMI

Coexistence of jadeite and quartz in garnet of the Sanbagawa metapelite from the Asemi-gawa region, central Shikoku, Japan.
Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 109, 169-176, 2014

推薦理由

本論文は、四国中央部汗見川地域に産する三波川変泥質岩のザクロ石中からヒスイ輝石と石英の複合包有物を発見するとともに、ラマン分光分析に基づく石英の残留圧力測定結果も合わせて、当地域にエクロジヤイト相を経験した変成岩類が分布することを論じたものである。近年の研究で、三波川帯では緑色片岩相から緑簾石-角閃岩相の変成作用に先立って、より高压のエクロジヤイト相の変成作用を被った地域があることが明らかになり、その分布範囲が議論となっている。本論文で記載されたザクロ石、ヒスイ輝石と石英の共存はエクロジヤイト相を示す直接的な証拠であり、鉱物化学組成からエクロジヤイト相の変成圧力の下限が具体的に1.4-1.9 GPaであること、ラマン分光分析から石英が既知のエクロジヤイト相の石英と同程度の残留圧力を持つことが明らかになった。また、試料は従来エクロジヤイト相変成作用の痕跡が報告された別子地域からおおよそ15 km 離れた地域で採取されており、エクロジヤイト相変成作用が従来の推定よりも広範囲に及ぶことが明らかになった。三波川沈み込み帯のより深部に由来する岩石の地理的広がりとその形成条件に関する知見は、三波川帯を含む過去の沈み込み帯の温度構造や変成岩類の上昇過程の解明に貢献すると考えられる。以上のことから、本論文は日本鉱物科学会論文賞にふさわしい内容をもつものと判断し、受賞対象論文として推薦する。

受賞者

田口知樹 会員

榎並正樹 会員



田口 知樹 会員の略歴

2011年 3月 静岡大学理学部地球科学科卒業
2013年 3月 名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程修了
2013年 4月 名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程入学
2015年 4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)採用
2015年 9月 現在に至る

榎並 正樹 会員の略歴

1976年 3月 金沢大学理学部地学科卒業
1978年 3月 金沢大学大学院理学研究科修士課程地学専攻修了
1981年 3月 名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程地球科学
専攻単位得満期退学
1983年11月 理学博士 (名古屋大学)
1981年 4月 日本学術振興会奨励研究員
1982年 4月 名古屋大学大学院理学研究科研究生
1984年 3月 名古屋大学理学部助手
1989年 2月 スタンフォード大学特別研究員(兼任: 1989年12月まで)
1993年 7月 名古屋大学理学部助教授
1996年 4月 名古屋大学大学院理学研究科助教授
2000年10月 名古屋大学大学院理学研究科教授
2001年 4月 名古屋大学大学院環境学研究科教授
2006年 4月 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員
(兼任: 2009年3月まで)
2012年 6月 名古屋大学年代測定総合研究センター教授
2014年 4月 名古屋大学年代測定総合研究センターセンター長
2015年 9月 現在に至る